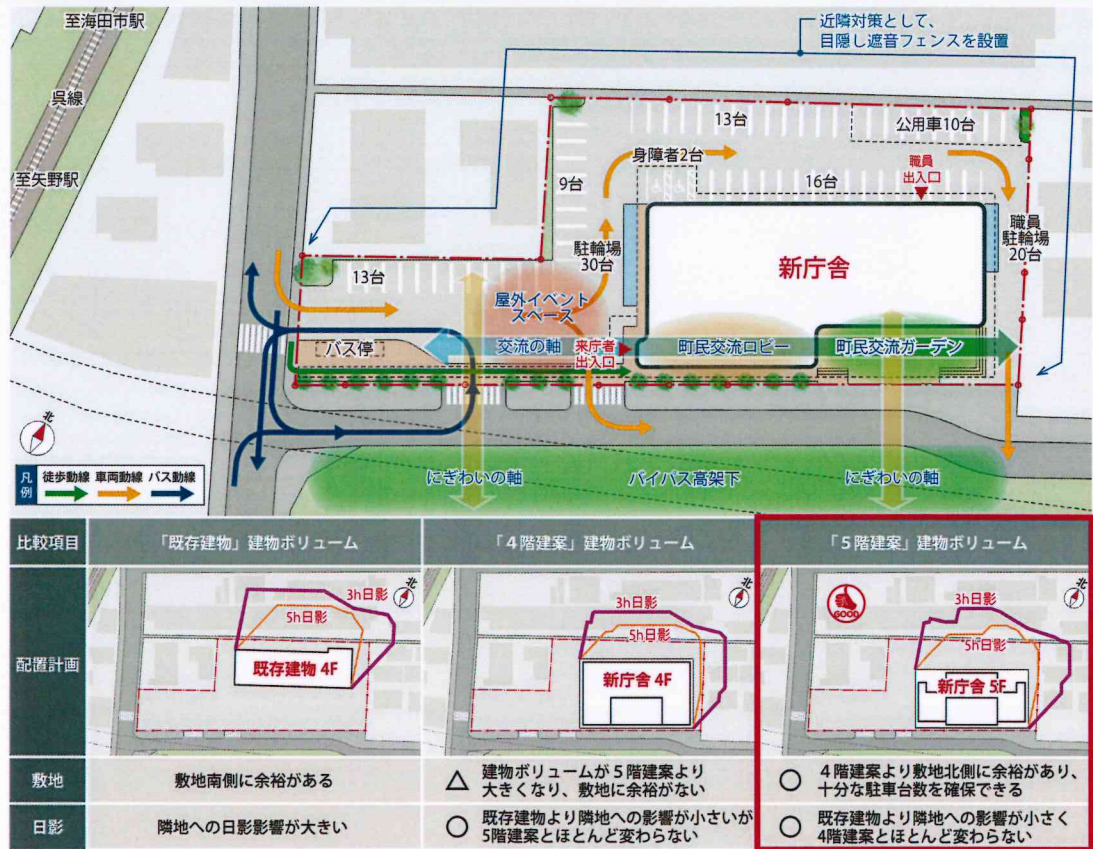


新しいまちづくりの出発点となる庁舎

町民の念願である新庁舎の整備計画において、まずこの場所に創ることの意義を考えました。我々はそれを「新しいまちづくりの出発点」と捉え、海田町の新しい顔として、安全・安心・交流・賑わい・協働・活気の和を結び、その和がバイパスを伝い周辺地域と繋がっていく...そんな、町民の誇りとなる新庁舎を提案します。



周辺環境を活かした敷地利用計画



町の活性化に資する庁舎／暮らしやすさを促進する庁舎 (テーマ5・6)

住民が集いやすく、賑わいの空間を提案します。

①まちづくりの拠点

- まちの新しいシンボルとして、明るく開かれた誠実さを象徴するガラスと、質実剛健な庁舎としての威厳を表すレンガタイルで外観を構成します。
- 各階外部の底には常緑に緑化を施します。周辺地域や近隣住民に新しいグリーンエコ庁舎として認知され、来庁者や職員には癒しと安らぎの庁舎として愛される設えとします。樹種は散水不要で乾燥に強く、ローメンテナンスの常緑キリン草の採用を検討します。
- 敷地西側から歩道を進み、エントランスに入った所に2層吹き抜けの町民交流ロビーを設けます。町民同士の交流や、窓口業務の様子、この町で暮らす人々の顔や賑わいが一体となった空間とします。
- 町民交流ロビーから奥へ進むと、ひとつなぎで半屋外の町民交流ガーデンへと繋がります。来庁者の憩いの場や住民のイベントスペースとして、死角のない安全な空間を作ります。



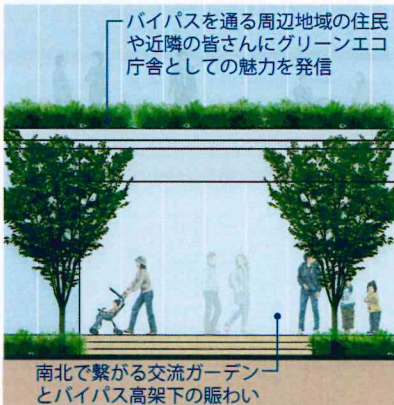
町民交流ロビーイメージ

②どの世代にも暮らしやすいまちづくり

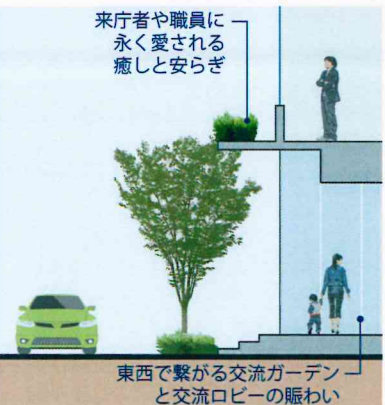
- 2階には、子育て支援の拠点となる子供課と高齢者支援の拠点となる地域包括センターを配置し、子育て世代と介護世代への多面的なサポートを充実させます。
- 両課に近接して町民サロンやキッズコーナー・授乳室などを設け、多様な交流機会を生み出し、若い世代も活き活きと暮らせる拠点となります。

③情報拠点としての庁舎

- 全階に、町民の暮らしを豊かにする生活情報や子育て支援情報、医療・福祉や緊急を要する災害情報など、デジタル掲示機器により常時発信します。
- まちの魅力を伝える情報発信スペースやギャラリーとして町民交流ロビーを積極的に活用します。



南北で繋がる交流ガーデンとバイパス高架下の賑わい



東西で繋がる交流ガーデンと交流ロビーの賑わい

住民にとって安全・安心な庁舎 (+α(免震構造)) (テーマ1)

危機管理に徹底したBCP庁舎を提案します。

①災害時にも業務が継続できるBCP庁舎(ライフラインの確保)

- 電力受電方式は高圧受電装置を採用し、2回線受電を検討します。
- 受水槽には緊急遮断弁を設置し、配管破断時にも水量を確保します。
- 地下ピットに緊急用排水槽を設置し、排水断絶時にも機能を確保します。
- 屋外駐車場には仮設トイレ用マンホールの設置や、ガス燃料の確保による炊き出し対応などを検討し、災害時に頼れる庁舎を目指します。

②災害対策拠点としての防災対策センター

- 海田町地域防災計画に基づき、4階に防災対策室や重要室、総務課、電算室、備蓄倉庫をまとめ、速やかに危機管理体制が整う計画とします。
- 防災対策室等の重要室や避難施設部分には、発電機による電力のバックアップや熱源の多様化により空調機能を確保します。
- 災害時に1階町民交流ロビーをボランティア受付とし、2階執務エリアや3階会議室、5階議場を避難所として被災者に開放することも検討します。

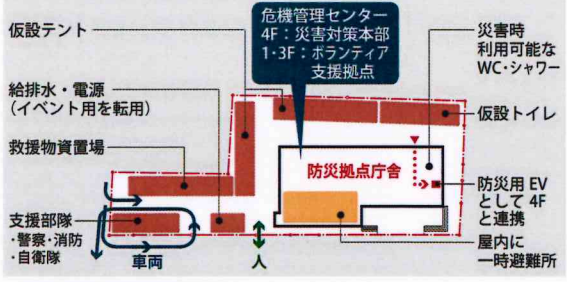
③強固なICT

- 4階防災対策室は、大型ディスプレイ・Web会議用カメラ・数十台のPCに対応するLAN等、映像音響システムを構築した防災会議室とします。
- 4階電算機室は、床免震と耐火壁を設えることで、災害時に個人情報等を含む行政上重要なデータの消失を防ぎます。

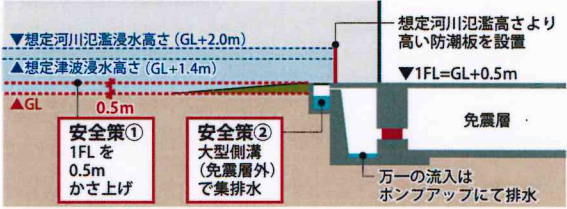
④免震工法の選定

- 免震装置への津波・浸水対策に加え、町民の利便性・コスト・周辺住民への配慮も考慮し、基礎免震工法を選定します。
- 津波対策：想定される最大津波高さTP+2.0~3.0m(GL+0.4~1.4m)に備え、1FLをGL+0.5m高上げし、TP+2.0m(GL+0.4m)までの津波を防ぎます。それを超えるTP+3.0m(GL+1.4m)の津波には防潮板で対応します。
- 氾濫対策：大型側溝での集排水と防潮板の設置により対応します。
- 利便性：柱頭免震の場合は1階ピロティ(駐車場)・2階窓口となりますが、基礎免震の場合は1階窓口が可能となり、来庁者の利便性が確保されます。
- コスト：基礎免震は免震層が地下なので、床面積と階層が抑えられます。
- 周辺配慮：柱頭免震と比べて建物高さが抑えられ、日影範囲が抑制できます。

庁舎を中心に敷地全体を活用



多重の安全策で浸水を防ぐ



免震層設置階の比較検討

| 比較項目        | 基礎免震構造  | 柱頭免震構造  |
|-------------|---------|---------|
| 断面イメージ      |         |         |
| 耐震性         | ○       | ○       |
| 津波対策        | ○ 防潮板設置 | ○ 防潮板不要 |
| 河川氾濫対策      | ○ 防潮板設置 | ○ 防潮板不要 |
| プランニング(利便性) | ○       | △       |
| コスト         | ○       | △       |
| 周辺配慮        | ○       | △       |

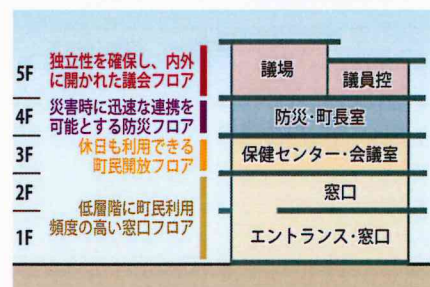


## 利用者にとって利便性の高い庁舎 (テーマ2)

### 窓口の集約・分かりやすいレイアウト・ユニバーサルデザインを提案します。

#### ① 分かりやすいフロア構成・ワンストップ窓口

- 1・2階に窓口業務を集約させ、来庁者に分かりやすく利便性の高い計画とします。
- 3階には保健センターと町民も利用できる会議室を配置した明快なフロア構成とします。
- エントランスにはコンシェルジュのいるワンストップ窓口を設置します。
- 問合せ窓口を一元化することで、初めて訪れる来庁者も不安なく安心して利用できる優しい設えとします。



分かりやすいフロア構成

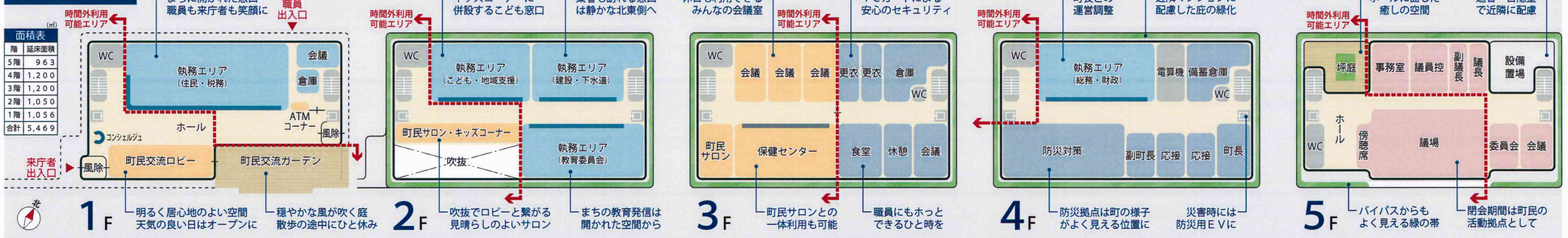
#### ② 来庁者にやさしいユニバーサルデザイン

- 敷地内を含め、庁舎内は段差がなく滑りにくい床仕上げを選定します。
- 車椅子エレベーターや各階に多目的トイレ（オストメイト対応）、キッズコーナー、授乳室等すべての人にやさしい設えとします。
- サインは高齢者や外国人等すべての人に分かりやすい計画とし、音声案内や点字も併設した安心のユニバーサルデザインとします。



誰にもやさしく、使いやすいユニバーサルデザイン

### 平面構成イメージ



## 効率的な行政運営を促進する庁舎 (テーマ3)

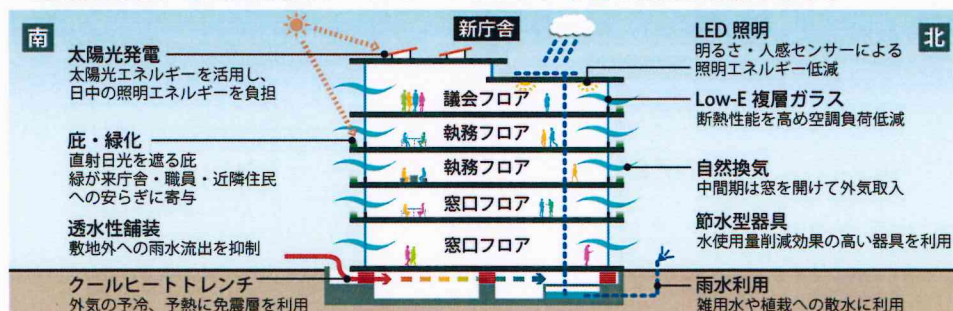
### 効率的な執務環境・維持管理コストの低減を提案します。

#### ① 自由度の高いオープンな執務空間

- 両端コアを採用することで、中央に自由度の高いオープンな執務空間を実現し、将来の各課の配置変更など様々なレイアウト変更に柔軟に対応できます。
- 町民と職員のエリアを明確に分け、休日や時間外も町民が利用できるエリアを設けます。特に高いセキュリティが必要な4階特別室エリアは入退出管理システムを検討します。

#### ② ランニングコストの縮減

- 床仕上げ材はノンワックスタイプを採用し、維持管理がしやすく清掃費も削減します。
- LED照明や人感センサーによる点消灯や節水型器具などを積極的に採用します。
- 太陽光発電や地中熱利用のクールヒートトレンチなどの採用を検討します。



グリーンエコ庁舎

## 住民参画・協働を促進する庁舎 (テーマ4)

### 交流スペースの充実・町民活動の拠点機能を提案します。

#### ① 町民交流スペースの活用

- 町民交流ロビーは、来庁者や周辺住民が集まる交流スペースとしてはもちろんのこと、町と民間企業・町民参加のコラボ企画や商品開発の発表など、まちの情報発信スペースとしても活用できます。また、休日には町民交流ガーデンや屋外駐車場・バイパス高架下と一体的に利用できるイベントスペースとしての機能を持たせ、地域の催しやマルシェ、フリーマーケットなど、まちの賑わいと活気を生み出す場となります。



町民交流ガーデンイメージ

#### ② 町民活動の拠点

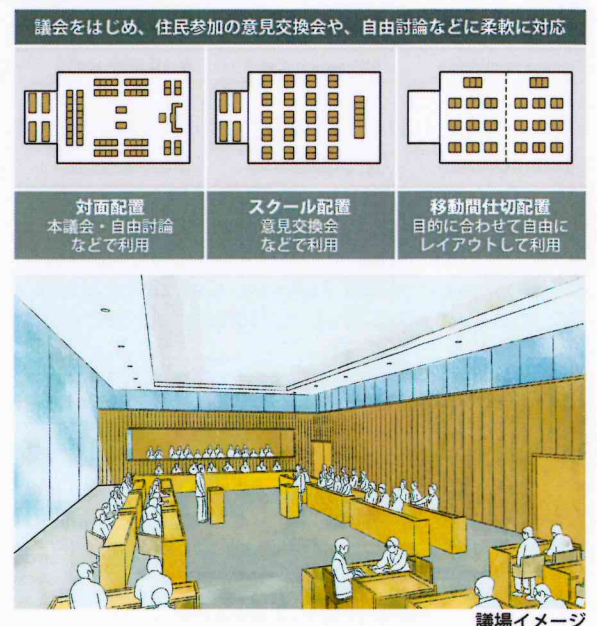
- 1階の町民交流ロビー、2・3階の町民サロン、3階の町民も利用できる会議室などを有効活用し、町民が気軽に活動できる空間を作ります。
- 5階の議場は、閉会期間中に子ども会のイベントや介護に関する講演会、子育てフォーラムなど、町民同士の交流や町民協働の場、住民参画型の情報発信拠点として活用できる設えとします。

## 開かれた議会とその活動を支える庁舎 (テーマ7)

### 使いやすい議場・ICT化を提案します。

#### ① 使いやすい議場

- 議場は段差のないフラットな床とし、各種イベントの多様なレイアウトにも対応できます。また、議場机は可動式とし、傍聴席の下に収納できる設えとします。
- 議会関連諸室は、5階ワンフロアに集約します。傍聴者は西側エレベーター、議員は東側エレベーターを利用し、動線の交わらない明確なゾーニング計画とします。



議場イメージ

#### ② 議会のICT化

- 議会中のライブ映像を1階町民交流ロビーで放送し、町民にとって議会が遠い存在ではなく、身近で誇れる存在になります。

## 全体事業費（イニシャルコスト）に関する提案

### 実現可能な手法によるコスト削減案を提案します。

#### ① シンプルかつコンパクトな計画

- シンプルでコンパクトな平面計画とすることで、構造・設備共に経済的な計画設計が可能となり、建物全体でのコスト削減となります。
- 構造体を鉄骨造とすることで、柱の少ない大空間構造が可能になります。また、柱が減ることによる免震装置の集約化がコストの削減に繋がります。

#### ② 建物重量の軽減化

- 免震装置の費用は建物の総重量に比例します。免震層から上部を重量の軽い鉄骨造とすることで、免震装置の費用を低減します。
- 快適な居住性の確保と天井内設備配管スペースを検証し、必要最小限の階高により建築ボリュームを抑えます。

#### ③ 明確なコストコントロール

- 設計初期段階から建築積算士が参画し、設計仕様の検証、コストバランスの確認、継続的なVE設計を行い、費用対効果の高い計画を行います。



## 全体事業期間の短縮に関する提案

### 合理的で無駄のない工期を提案します。

#### ① プレハブ化・ユニット化

- 構造体を鉄骨造とすることで、在来RC造に比べて型枠工事や鉄筋工事などの現場作業を大幅に削減し、躯体の工事工程を大幅に短縮します。また、現場作業の削減により、東京オリンピック・パラリンピック需要で想定される現場作業員の不足（鉄筋工や型枠工、ダンプ運転手）など、工事遅延リスクも低減します。
- 躯体工事以外に、外装・内装工事や設備工事においても、工場製品の採用やプレハブ化・ユニット化を採用し、工期の短縮を図ります。

#### ② 仮設・掘削土量削減

- 建物周囲のスペースを活かして、土留壁や切梁（土留壁が倒れないように突っ張る梁）が不要なオープンカット工法の採用を検討します。工期の短縮と併せて、工事用構台などの仮設コストも削減します。
- 基礎底を地下水位（1.5m～2.0m）より浅いレベルに設定することで、湧き水処理等の工事遅延がなく、掘削量も減小し、工期短縮とコスト削減も図れます。

